（様式１）

視　察　報　告　書

平成２８年６月１６日

鳥取市議会議長　様

鳥取市議会　建設水道委員会
委員長　上田　孝春　㊞

本委員会は、下記により委員を派遣し、行政視察（調査）したので、その結果を報告します。

記

１　期　間	平成２８年４月１９日から平成２８年４月２１日
２　派遣先	岐阜県中津川市 岐阜県高山市 富山県富山市
３　視察内容（調査）	岐阜県中津川市 ・小水力発電について 岐阜県高山市 ・簡易水道事業と水道事業の統合について ・歴史と街並みを活かしたまちづくりについて 富山県富山市 ・公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりについて
４　派遣委員の氏名	上田　孝春　委員長 魚﨑　勇　副委員長 太田　縁　委員 横山　明　委員 椋田　昇一　委員 秋山　智博　委員 田村　繁巳　委員 金谷　洋治　委員
５　委員会所見	別添のとおり
６　参加者所見	別紙のとおり

（別添）

視 察 先	岐阜県中津川市
調査項目	小水力発電について
（所見）	・効果的な小水力発電を行うためには、地元・権利者の協力、理解、年間を通しての豊富な水量、また発電に欠くことのできない高低落差等々の確保が必要である。誰もが自然エネルギーの必要性は十分認識をしていますが、今後、本市での小水力発電の取り組みを考えるとき、適地の選定、権利関係者、採算性、規制法令等の十分調査が必要であると感じた。 ・鳥取市においても日本海側独特の気候、地形を持っており小水力発電所設置可能な場所はかなりあるのではないかと思われる。今後情勢は水力のみならず太陽光、バイオマス、水素発電等を推進し、輸入資源に依存しない持続可能な社会を目指していくであろう。当市としても太陽光以外の発電手法を検討していく必要が感じられた。 ・小水力発電を推進するうえの課題として適地選定の見定めや山・川などの許可の問題、水利権の問題などの諸課題があるが、20年後に社会情勢がどのように変わるのか見定める必要がある。本市も自然エネルギー構想を策定し、計画性を持って自然エネルギー推進を推し進める必要がある。 ・バス移動で垣間見た中津川市域は、まさに起伏に富んでいた。適地選定の見極めが難しいとお聞きしたが、小水力発電による持続可能な社会の実現をめざす取り組みとして、期待が大きい。鳥取市における導入の検討と事例はどうなのか、研究したいと思った。 ・鳥取市においても水量の多い山間地も多くみられる。参考にし、設置可能であれば前向きに進めていくべきであると感じた。 ・太陽光パネルに偏らず、鳥取市においても地域の特性を活かした小水力発電のみならず、再生可能エネルギーの研究を進めるべきただと痛感した。 ・小水力発電は、豊富な水量と20メートル以上の落差が必要とあり、本市にも適地がないか調査しあれば導入を検討しほうがいいと感じた。 ・地形的にも、小水力発電に適した場所があると思われる。適地選定をして検討してみる必要がある。

小水力発電の視察の様子

視 察 先	岐阜県高山市
調査項目	簡易水道事業と水道事業の統合について
（所見）	・本市の簡易水道を考えたとき、今後水需要は、大口需要者は水のリサイクル化、地下水ビジネスによる自己水運用や、一般家庭においても節水型家庭家電の普及、節水意識が定着すれば給水量が減って水道事業会計としてさらに厳しいものがあると考えれば、不採算性の高い簡易水道の統合にあたっては、あらゆる面において十分配慮、検討、協議を行っていく必要があると強く思った。 ・管路は更新されてなく、今後これら統合前の簡易水道管更新費用の増大が懸念される。また、全国初の指定管理者制度導入は他の施設への導入とあわせて人件費削減の一環として行われたものであり、導入に対する抵抗は生じなかったようである。管理内容も給水業務管理を導入しているもので建設、更新は従来通り高山市で行っている。鳥取市においても選択肢の一つとして考えられる。 ・改良する事業規模については費用をかけてなくて、あくまで統合を優先的に進めてきた経緯があり、クリプトに対応した施設はないようだ。また、浄水施設の維持管理を指定管理に移行している。平成の大合併により面積も大きくなり、自治体によって現状も異なり様々な課題があり、財政運営が厳しい状況にある。国においては、統合後の支援策について引き続き実施していただきたい。 ・高山市の場合、広大な面積と地形上の理由から経営統合したが、施設の統合をしていないということであった。こうしたことが、今後の水道事業経営にどう影響するのか、幾多の困難が予想される。本紙の場合もそうであるが、いずれにしても国の財政支援が必要とされる状況にある。 ・鳥取市では上水道約 16 万人、簡易水道約３万人で更新費用が約 10 年で約８６億かかると伺っている。とても遅れているが、国からの財政措置を要望し、早い完了を望む。 ・多数の施設の統合と、合併４村の料金は差が大きく、谷筋ごとにある簡易水道は隣との距離が離れており、ハード整備が難しく、水道管の統合は出来ていないなど苦労が見られた。この統合には高山市の水道施設の維持管理を一部担当していた管設備工業協同組合が主体になっており、もともとコミュニケーションがとれており連携は十分機能しているという印象だった。 ・経営は統合したが管路はそのままということなので、今後の施設整備が大変と感じた。本市も同様と思うので、国に対し統合後の支援を強く要望することとされたい。 ・本市は組織として統合して、施設管理は、何カ所か地域で管理する方法で対処する方法を検討すべきと感じた。

簡易水道事業と水道事業の統合の視察の様子

視 察 先	岐阜県高山市
調査項目	歴史と街並みを活かしたまちづくりについて
（所見）	・この街並みを残してきた高山市の先人の方々の歴史、文化、建造物の保存・継承に対するはかりしれない熱い思い、強い意志というものを強く感じた。本市でも観光資源発掘、さらなる資源に磨きをかけ環境整備、充実を図って観光産業としての政策展開することが重要ではないかと強く思った。 ・鳥取市においては震災、大火がありこれら伝統的な街並み、寺院群はほとんど消失していて街区が残っているのみである。本市においては高山市の後追いをしようにも基礎建造物再現はできるはずもなく不可能である。逆に高山市にない城郭の復元を模索したほうが現実的ではないかと思われる。 ・歴史的文化財保存の取り組みについて、高山市と比べて本市は取り組みが弱いと思います。観光客増加策の観点で進めることは期待できないが、今後、歴史的文化財を活かしたまちづくりを推進していくうえで保存方法について議論する必要がある。 ・このような歴史的風致は、短期間でできるものではなく、長い年月に渡る営みの結果であることを思った。地域によっては時すでに遅しということも多々あると思われるが、今後鳥取市ではどうなのか、よく考えてみることが必要だと感じた。 ・観光客のほとんどが外国人の多さにびっくりした。鳥取市も外国人の誘致に力を入れるべきだと感じた。 ・これだけの取り組みを行うためには担当部局には専門職員が多数配属されているのかと尋ねたところ、専門職員も配置されてはいるが、多くは配属されてから勉強しており、職員研修の方が効果を上げているということだった。まちに誇りをもち、まちの基幹産業の一つである観光に全庁的に取り組んでいる姿勢に驚かされた。 ・高山市には、昔の姿がそのままの状態であるといくことが、平日にもかかわらず、国内外からたくさんの観光客が訪れていた実態に驚嘆しました。歴史・自然・食などから鳥取市にしかないもの鳥取に行けば感じられるものを、改めて見つめ直さなければと思った。また、「鳥取・因幡定住自立圏構想」を具体化さすことだと感じた。 ・外国人観光客が多かった。鳥取も観光ＰＲにもっと力を入れるべきと感じた。

歴史と街並みを活かしたまちづくりの視察の様子

視 察 先	富山県富山市
調査項目	公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりについて
（所見）	・富山市のコンパクトシティの実績・効果の説明を聞いて空洞化した中心市街地に人の流れをつくるためには、子供、お年寄りすべての市民が集って楽しくコミュニティ生活ができるあらゆる環境が整ったコンパクトシティのまちづくりを進めなくては、中心市街地の活性化の実現はできないと思われた。 ・富山市の取り組みを見るときも当市の独自性、独立性がうかがえる。先進例を模倣するのではなく富山市にできる独自性を追求している。鳥取市においても各事業部で計画されているが各部一体となった横断的な検討を行い他にない独自性の追求も必要ではないかと考えられた。 ・本市も少子高齢化、人口減少が進んでいる中で多極型コンパクトシティ構築を目指していますが、公共交通を活かした取り組みは必要と考えています。中心市街地の活性化だけでなく、沿線地域の核となる地域への支援策が必要と考える。 ・コンパクトなまちづくりの施策の対象地域は確かに魅力的であるし、一定の成果をあげている。しかし、その対極にある農村部や郊外の状況はどうなのか。農村部や郊外の住民は、これらの施策をどのように評価しているのか。それは「仕方ないのかな」というものであるということだった。時間の経過とともに「仕方がない」というあきらめをつくりだすようなことはしてはならないと思う。 ・まちを集中し、路面電車でつなぐコンパクトなまちづくりが成功した例と感じた。鳥取市も人口が半分以下で同じことをするには無理があるのではないか。バスを利用しながら今後も高齢者の方のためにも公共交通の維持をすべきと考える。 ・富山ライトレール導入の結果 JR 時代より乗客数が増加した。日中に、高齢者の利用が増えた。課題としては、「お団子」の拠点公共施設の充実が残っている。現状の「お団子」は、の自転車置が中心の施設となっているが、徐々にと店舗も生まれだしている。 ・富山市のあらゆる公共交通や新規事業も取り入れたコンパクトなまちづくりは、利用客も増加しており、大いに参考にすべき点は多々あると感じました。本市の多極型コンパクトシティでは特に、合併地域のまちづくりが一地域一拠点でなく、複数の小さな拠点をつくることが必要と改めて実感した。 ・地域ごとで、コンパクトなまちづくりをし、それを公共交通で結んでいけるようにする必要があると感じた。

公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりの視察の様子